
考古学者の魔王の考察

佐々木 アヤネ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

考古学者の魔王の考察

【Nコード】

N3277BA

【作者名】

佐々木 アヤネ

【あらすじ】

考古学者ローレンス・アスターの考える、古くから伝わる勇者伝説 の影、魔王リオノーラ。

完全に悪として勇者伝説に描かれる魔王の真実と思惑を、助手兼健康管理係のアルバートとともに解き明かす。…… たぶん。

一体どこへ向かうのか、作者もわかってません。

1・考古学者の思想

魔を統べる孤高の王リオノーラは、勇敢なる青年ルイスに屈した。後の勇者伝説で1番有名となる文章である。しかし勝利を得た勇者ルイスの人生が語られたその伝説には、語られなかった影が潜んでいた。魔王リオノーラの、魔王と呼ばれるまでに至った真実と、思考。

後世の人々には語られなかった影は、一体何を願っていたのだろうか。

考古学者ローレンス・アスターより引用

語られなかった魔王リオノーラは、人間ではなかったと言われる。^{ディアブロ}魔族と呼ばれる、浅黒い肌に漆黒の髪を持つ魔力の扱いに長けた種族だ。

当時の人々の観念として、非常に差別の強い種族として知られている。魔王の一族として今でも差別はなくならないが、根本の理由として彼らは魔物を従えることができるらしい。もともと彼らは近年姿を表すことすら少なくなったため、真相はわからないが。

^{モンスター}魔物といえば、^{マナ}魔力の濃い場所から生まれてくるものが200年ほど前に発見された。それまでは魔力の多いところに魔物が集まってくるというのが常識とされていたため、発見した研究者は異端審問にかけられて亡くなったが、死後^{モンスター}真実であることが認められ有名となった。今も彼の意味を継いで魔物の研究をしているものがあるというのを聞いた。生まれたばかりの魔物が^{モンスター}気性が荒いというのを

発表していた記憶がある。

まあ、なにせよ魔族もとい魔王リオノーラは人々からの差別を受けていたのはもちろん、魔物を従える力があつたのではないだろうか。そして恐らく従えていた魔物については詳しいはずだ。魔力から魔物が生まれてくることも、生まれてすぐの魔物の気性が荒いということも知っていたのではないだろうか。

魔力の濃いところへ魔物を引き連れて現れ、ひとしきり暴れていくという伝承が残っているが、魔物の生態がわかりはじめた今では些か謎が残っている。

魔物を引き連れていたのではなくて、そこで生まれたばかりの魔物を

「……根を詰め過ぎだ、ローレンス」

「すまないね、いやしかし私の考えではひとえに魔王リオノーラが悪者だとは考えづらいという結論がでたんだ。少しぐらい根を詰めさせてくれたって良いだろう」

「随分楽しそうに喋っているところ悪いが、お前が最後に寝たのは42時間も前だ。しかもそのときは2時間しか寝てない」

折角綺麗に考えがまとまりそうだったのに、と口を尖らせてみせるもののアルバートの言うことは本当だ。わざわざ私の睡眠時間まで把握しているのは、彼が助手兼私の健康管理係だからである。

アルバートの言葉にはとにかく寝ろ、という裏がみてとれる。考えを中断された上に、42時間も寝てないとなれば流石の私でも限界だ。ここは私が折れることにしよう。

「アルバート、3時間後……2時間後に起こしてくれ」

私の部屋には様々な文書が積み上げられている。それ以外には私の考えをまとめるためのメモと、机ぐらいしかない。

寝るためのベッドは別の部屋にあるのだが、そこまで動く気はない私はそのまま目の前の机へと突っ伏した。

その後、呆れたアルバートに放置され、目覚めたのは14時間後だった。

2・すれちがい

「なぜ起こしてくれなかった」

「寝ないと体に悪いだろ」

正論だ、言い返す余地もない。

だが私には今解き明かすべきテーマがあるのであって、そのためには睡眠などなくとも良いものだ。

「……それは認める。しかし聞けアルバートくん、私には圧倒的に時間がないのだよ。ああ、嘆かわしい寿命という呪縛 私に残された時間は長くて80……いや、老化してゆくことも考えに入れるとすれば50年ほどが限界だ」

私は人間^{ヒューマン}だ。母も父も純粋な人間^{ヒューマン}であり、何らかの混血という可能性はない。

人間は非常に人型の生物の中では弱い部類に入る。繁殖力は申し分ないものの、特に魔力^{マナ}の扱いに長けているわけでも、身体能力が高いというわけでもない。特徴がないのが特徴ともいえるべき種族だ。そして肝心の寿命は長生きで100程度、短命であれば30やそこらで亡くなってしまう同胞だっている。

対して魔族や獣人^{ディアブロ ビースト}は200年は軽く生きる。その分繁殖力が低いという点もあるが。

そしてさらに人間^{ヒューマン}は他種族に比べて体が脆い、いつ事故で私が研究を行えなくなってしまうかもわからない。

単純に今やらなくては遅い。という考えが私の持論だ。

「全く、君と体だけでも入れ替わりたいぐらいだよ」

「気持ち悪い」

「心外だな。私からみて君は特に打ち込んでいるものがあると思えない、長く生きるだけ時間の無駄ではないだろうか。それならば時間の欲しい私と体が入れ替わったほうが互いにいい結果をもたらすと思うんだが」

アルバートは獣人^{ビースト}だ。年は私よりも2倍ほど既に生きていらしい。見た目は私とそれほど変わらないが。彼は私が死ぬのを仮に80歳としてもそれから100年は生きていられるだろう、老化速度も人間^{ヒューマン}に比べて遅い。

純粹に羨ましいという気持ちを込めていたのだが、アルバートには癪に障ったようだ。小さく舌打ちをし、私とは違うということを主張するしなやかな尻尾を揺らして部屋から出てってしまった。

「……気難しい奴め」

とりあえず、寝る前に考えた仮説をまとめることにしよう。
彼のことはそれからだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3277ba/>

考古学者の魔王の考察

2012年1月8日19時46分発行